

§2 人口動態の概要

表7 出生率の推移

平成18年の出生数は、13,648人、出生率は、人口千対10.5で各都道府県・指定都市と比較すると、本市より高いところは、1県（沖縄県）と全国的にも高いところに位置している。各区の出生率をみると、中原、高津、宮前区が全市の10.5を上回っている。

	平成8年	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
総数	10.9	10.9	11.0	10.7	11.0	11.0	10.9	10.4	10.4	10.0	10.5
川崎	8.7	8.5	8.8	8.4	8.8	9.4	9.4	8.9	9.0	8.6	9.3
幸	9.5	9.6	9.2	9.3	10.1	10.6	10.2	9.4	9.8	9.7	10.4
中原	12.0	12.1	11.8	11.9	12.0	11.6	11.5	11.5	11.3	11.0	11.4
高津	11.7	11.6	11.8	11.7	12.2	11.8	11.9	11.5	11.8	11.1	11.8
宮前	13.0	13.0	13.1	12.8	12.3	12.3	11.9	11.2	11.4	10.7	10.7
多摩	11.6	11.4	11.5	11.1	11.6	11.4	11.0	10.7	10.5	9.9	10.0
麻生	8.9	8.9	9.7	9.1	9.1	9.8	9.5	8.8	8.5	8.1	9.3

資料：庶務課「人口動態調査（指定統計）」より

表8 再生産率の推移

出生率は、昭和46年以降減少傾向を示してきており、再生産率をみると、年齢階級別の合計である粗再生産率（合計特殊出生率）では1.26、また、女子だけの年齢階級別出生率の合計である総再生産率は0.61と、将来人口の増減の境界である1を下回っている。

	12	13	14	15	16	17	18
出生数	13,542	13,721	13,646	13,175	13,331	12,845	13,648
出生率	11.0	11.0	10.9	10.4	10.4	10.0	10.5
粗再生産率（合計特殊出生率）	1.29	1.29	1.27	1.23	1.24	1.19	1.26
総再生産率	0.62	0.63	0.61	0.59	0.60	0.58	0.61
純再生産率	0.62	0.63	0.61	0.59	0.60	0.57	0.61

注）純再生産率の算出については平成13年以前は各年前年、平成14年以降は当該年の川崎市生命表を用いた。

資料：庶務課「人口動態調査（指定統計）」より